

# 東海聖書神学塾

# 塾報

2022年 9月

第75号

460-0022

名古屋市中区金山2-1-3

金山クリスチャンセンター3階

☎・FAX 052-321-7516

郵便振替 00860-7-65807 東海聖書神学塾

E-mail tokai.seisyo.singakujuku@gmail.com

<http://tts.jp.org>

## 『泉を掘り当てよう』

理事長（安城キリスト教会牧師） 檀原久由



私は、9月まで放送していたNHKの朝ドラ「ちむどんどん」を観ていました。主人公のシェフ暢子さんと新聞記者の和彦さんが、イタリア料理店アツラ・フォンターナで結婚式を挙げる場面がありました。披露宴の中で、オーナーの大城房子さんがドイツの哲学者ニーチェの言葉を引用して、祝辞を述べました。

フォンターナという言葉はイタリア語で「泉」。房子さんは、ニーチェの「足下を掘れ、そこに泉あり」という言葉を、「自分の立っているところを深く掘れ、そこからきつと泉が湧き出る」と理解して、料理によってお客さんに喜びを提供する店を作るという理念で、フォンターナと名づけたそうです。イタリア料理店の開店を目指していた暢子さんにも、自分の料理の原点を深く掘ることを勧めたのです。ところが、暢子さんの答えがイタリア料理ではなく、沖縄料理となりました。

今年度は入塾者がゼロでした。この事態は創塾以来、初めてのことです。その様な状況であっても、夏期教会実習を再開できたことは大きな喜びでした。オンライン受講生の割合が高くなった中、塾生たちがお互いに顔を合わせながら協力して3教会での奉仕が出来ました。ここに神学塾の立つ一つの原点を見る思いです。

神学塾の立っているところを掘り下げたら、どんな泉が湧き出てくるのでしょうか。皆さんの教会の発展に寄与できるように、神学塾はその原点に立ちながら、深く掘り下げて、いろいろな味の泉を掘り当てたいと願っています。皆様のご協力とご支援を宜しくお願いいたします。

## 女性公開講座

1月25日 火

「みことばを知りみことばを伝える」をテーマとして、ZOOMで2年ぶりの女性公開講座が開催されました。初のオンラインでの講座という事もあって緊張の走る中、司会者の祈り、そしてピアノの奏楽が流れはじめ讃美歌で心が整えられていくのがわかり、講座への期待も高まってきました。



当塾の講師岩田直子師は旧約と新約の沈黙の時代と言われる「中間時代史」から、現地イスラエルのスライドの紹介と今も大切に受け継がれているユダヤ教の伝統文化などを紹介されました。同じく黒木昭江師の「教会教育」ではスキットを通しみことばを伝えるのにいろいろな切り口があることを紹介くださり、どちらの講座も「大変有意義な時間でもう一度聞きたいという」アンケートの声が多く寄せられました。

今回の講座は女性奉仕者（ベーシック）コースの卒業生を中心にして準備されました。オンラインでの公開講座が実現できて、神様は素晴らしい恵みを与えてくださいました。この講座を通して入塾された方もおられ大きな喜びでした。  
(2021年度基礎科卒業生 安田浩子)

## 春のリトリート

4月4日 月



鴨下直樹先生を講師に「旧約時代と新約時代の祈り」をテーマに金山教会で開かれた。

「旧約時代の祈り」鴨下師は詩篇102篇をテキストに「主よ、私の祈りを聞いてください。私が呼ぶときに、すぐに私に答えてください、と詩篇記者が叫ぶのは、まさに『電子レンジ』の祈り。私たちの祈りの現実ではないか」と塾生に問いかけた。そのうえで、「私たちが自分勝手な祈りをするのを神様はご存知だが、祈り続けるうちに詩篇記者が自己憐憫の祈りや神様への責任転嫁の祈りから脱却したように、神の視点に立てるようになる」と述べた。

「新約時代の祈り」マタイ福音書6:5~8等をテキストに「私たちは祈る時に『人に良く見せたい』という気持ち、自分の義を示そうという誘惑がないだろうか」と問題を提起。「『祈る時は、家の奥の自分の部屋に入りなさい』とあるように、自分と神様の祈りに集中すること。私たちが見せたくないものも知っておられる神に自分のことをさらけ出して祈れまい。そうすることで<祈りの道>ができてくる」と祈りの秘訣を語った。

自身が神学生時代に「祈れなくなった時期がある」と告白した鴨下師。フォーサイス『祈りの精神』など、「祈り」に関する著作を読破して祈りの極意を探り続けた経験も語り、塾生にとって大きな励ましの時となった。

(専門科3年 加藤直樹)

## 夏のリトリート

7月18日 月



「教会」をテーマに、金山教会にて対面とオンライン配信を併用して行われた。講師はJECA朝日聖書教会の加藤光行師。前半は『土台の上をしっかり建てられる教会』と題し、教会とは人の集まりであり、その土台となるキリスト者になることを説いた。講義の間に一時間の休憩があり、師との交わりだけでなく、普段オンラインでしか会えない塾生同士の良い交わりの時となった。後半は『ともに苦しむことを喜ぶ教会』と題し、今、集まりが出来なくされている教会について、緊急事態宣言下の師の教会の実践を通し、教会のいのちである集まりと、人のいのちとのバランスが大切であると学んだ。また、エリヤ、サムソン、ヨナを例に私たちが陥りやすい症状について、御父や人との交わりを持ち自分を一人にせず苦難と健全に付き合うこと学んだ。更に話は熱さを増し、師が実際に経験した苦しみの末にたどり着いた境地を語られ、一人一人が主のために働きたいと願う時間となった。  
(基礎科 2年 兼田美幸)



## 教会実習

7月2～3日

### 知多のぞみキリスト教会



実習一日目はトラクトと教会案内を配布した後、のぞみ教会の歴史や目的を学びました。目的や理念がロゴマークとなっていて、意識づけの工夫がされていると思いました。

二日目の礼拝で、神学生は、説教、賛美、証し、子供のお話をしました。私は、子供のお話を準備する途中、聖書箇所や聖書解釈が合っているか、これでいいのだろうかと混迷してしまいましたが、東先生から温かい励ましの言葉をいただいて、奉仕することができました。礼拝後、教会の方々と音吉記念館を見学しました。楽しいブレイクタイムでした。

2日間という短い実習でしたが、東先生ご夫妻の主と教会に仕えている姿に何よりも学ばせていただきました。また、多くの方々のお祈りに支えられている、主に守られていることを感じた感謝に満ちた二日間でした。

基礎科4年 田中道子



### 基督兄弟団 扶桑教会



現在、無牧となっており、協力牧師が支えながら運営されております。その為、今回、伝道実習の配布用トラクトの作成や、礼拝の式次第に至るまで、全てのプログラムを任せて頂くことになりました。最初こそ、困惑もありましたが、塾生それぞれが学びの中で培って来たものや、賜物を最大限使い、奉仕に臨む事が出来、非常に恵まれた実践の場となりました。しかし、奉仕が終わり、振り返った時には、各々が上手く行かなかった事、反省点もまた多く見つかった様です。そのような姿を見た時、私たちの将来の教会形成の歩みは、決して暗いものではなく、かえって明るいものである事と思われました。

多くの教団・教派において教会運営の存続が危ぶまれる中、次世代を担う働き手を育てる事は、急務と言えます。今回の実習を通して見えたものは、「無牧の教会が神学生を育てる」という一つの明るい姿でした。試練の中を歩む時、弱さにただ目を留めるのか、そこに働かれる主の力に目を留めるのか、私たちに、二つの生き方があります。今回与えられた恵みは、主の力に目を向けることでした。弱さ、不足を覚える時だからこそ、主から来る恵みに目を留める平安と喜びがある。それが私たちの強さなのだと思えます。全ての教会に、主の力強さがより一層、現されますように願っております。 基礎科3年 田村洸太



### 天白キリスト教会



天白教会は幹線道路の近くにある、住宅街の中にあります。そのような教会の場所は、かつては森の中であり、宣教師が「教会をお与えください」と跪いて祈った所に教会は立てられている。またその土地はある教会員の献品であることを聞き、神様の御業に驚嘆しました。土曜日には教会周りの地区に、先生を含め5人で1000枚のトラクトを配りました。日曜日の礼拝前には、子供達、教会スタッフの方々と共に教会学校に加えていただき奉仕をしました。礼拝では司会、賛美、メッセージの奉仕を任せていただきました。

私達はキリストにあって一つ、皆がキリストの体の一部です。先生方をはじめ、教会の皆様は本当に私達を歓迎して下さいましたし、私達は与えられた機会に奉仕をすることができました。コロナ禍の過ぎ行かぬ中での実習でありましたが、神の家族である教会が互いに支え合い神様に仕えるとても良い実習でした。

専門科2年 山口友夢

## 行事報告

- 今年の入塾式はありませんでした。
- 4月4日(月)、鴨下直樹先生を講師に迎えて、金山教会でZOOM併用での春のリトリートを持ちました。
- 7月2日-3日、夏期教会実習を再開することができました。暑期中、兄弟団の扶桑教会、日本バプテスト宣教団の知多のぞみ教会、同盟福音の天白キリスト教会に分かれて、塾生による素晴らしい奉仕ができました。
- 7月18日(月)、加藤光行師を講師に迎えて、1日リトリートを金山教会にてZOOM併用で持ちました。
- 2022年11月21日(月)には、バイブル・アンド・アートミニストリーズの町田俊之先生を講師に迎えて、「絵画表現から学ぶ聖書の女性たち」と題して女性公開講座が予定されています。栄聖書教会に於いて、またzoomにて参加していただけます。(塾生主任 檀原久由)

## 教務報告

- 「収穫は多いが働き手は少ない。だから収穫の主にも、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。」マタイの福音書9章38節
- 東海聖書神学塾では、すべての授業でオンライン講義の対応を行っています。東海地区の方のみならず、遠方の方の学びにも対応しております。お気軽にお問い合わせください。オンライン受講希望の方は、年数回の対面でのセミナーなどの参加をお願いしています。聴講を希望される方もオンライン受講が可能です。お問い合わせください。また、別紙のオンライン受講申請書を提出していただくこととなりますので、そちらの用紙もご確認ください。
- 2023年1月6日(金) オープンセミナーとその後入塾説明会を行います。時間は午後2時からと午後5時30分から、「殉教者と改革者の祈り」の講義を教務主任の鴨下が行います。その後、午後3時と6時30分から説明会を行います。二回とも同じ内容ですので、ご都合のよい時間にお越しください。オープン講義は各1時間の予定です。次年度入塾を希望される方は、お気軽にお越しください。
- 来年度の入塾願書締め切りは2月10日(金)です。また、入塾試験は3月3日(金)午後1時です。願書をご希望の方は神学塾にお問い合わせください。また、ホームページからもダウンロードすることができます。
- 東海聖書神学塾では2022年度から「シニア・ライフ講座」を新設いたしました。そのため、「ベーシックコース」を取りやめ以前のように「女性奉仕者コース」を再開しています。詳しくはホームページをご覧ください。
- 東海聖書神学塾は随時、見学者を受け入れています。入塾前に授業光景を見て見たいという方は、神学塾にお問い合わせください。(教務主任 鴨下直樹)

## 2023年度 塾生募集

- 東海聖書神学塾のコースは以下の5つです。
  - 教職志願者コース「牧師、宣教師等に召された人のため/週2、3日の学びで5年程」
  - 信徒奉仕者コース「信徒牧会者・信徒伝道者・教会役員等のため」
    - \*週2日、昼または夜だけの学びの場合は4年程、昼夜の学びの場合は3年程で修了
  - 女性奉仕者コース「教会の女性奉仕者のため/毎週の金曜日の学びで2年」
  - 牧師夫人講座「牧師や宣教師夫人だけのため/隔週の金曜日の学びで2年」
  - アドヴァンスコース「牧師や神学塾の卒業生のため/毎月一度月曜日の学びで1年単位」
    - \*入塾願書をご希望の方は、どうぞ郵便で当塾へご請求ください。{返信用の94円切手同封}ホームページからダウンロードしていただくこともできます。
- 当塾は教会から推薦された献身者のみを受け入れる方針を堅持しておりますので、入塾希望者は必ず所属教会の牧師の指導を受けると共に、教会役員会で召命と献身を確認して頂き、教会全体の支援を受けて入塾できるように準備してください。
- 2023年度の入塾説明会は 2023年1月 6日(金) 2時~ と5時半~  
同 入塾願書の締め切りは 2023年2月10日(金) 必着  
同 入塾試験(筆記・面談)は 2023年3月 3日(金) 1時~ (全員)